

公開講座・講習会

世界で活躍するプロダクトデザイナー。

「無印良品」の監修を手がけ、電子精密機器、インテリア、オフィス文具など幅広い製品を世に送り出し、国内外で活躍する深澤直人氏を、緑の風豊かな9月24日に金津創作の森にお迎えし、平成28年度の生活とデザインセミナーが開催されました。

その仕事と業績は、「MUJI」CDプレイヤー、「±0」加湿器などがニューヨーク近代美術館（MoMA）の永久所蔵品になるなど広く知れ渡り、この公開講座にも県内外から200名を越える多くの受講者が訪れました。



今回の公開講座を告知するフライヤーは、深澤氏がデザインした黒龍酒造の酒器をビジュアルに。



製品開発で、福井県との深い関わり。

午後2時、自然の緑の中の素晴らしい会場で、最初は大きな開口部を解放したまま風を取り入れて深澤氏のセミナーが始まりました。

深澤氏はかねてより福井県のメガネや、越前漆器のデザインにも関わられた経緯があり、近年ジャクエツ環境事業（敦賀市）の遊具のデザインにおいてグッドデザインを受賞されたり、黒龍酒造（永平寺町）の冷酒用極薄グラスの開発を手がけられたことが縁となり、両社の協力を得て今回の福井での公開講座が実現しました。また経済界のみならず、共催として（公財）ふくい産業支援センターデザイン振興部、後援には（公財）金津創作の森財団、福井新聞社、福井県デザイナー協会、FUCA/福井クリエイターズアソシエーション等、多くの機関からの賛同や協力をいただき、製品デザインに関する企画や開発のプロセスについて多くの関心が寄せられていることが実感されました。



ジャクエツ環境事業の幼児向け遊具「OMOCHI（おもち）」。



女性の手のひらに収まり、味の変化が楽しめる黒龍酒造の酒杯（さかずき）。

人間のすべての行為は、 環境に動かされている。

深澤氏のデザインとは「形は環境が既定している。それに対して輪郭を引くのが私の仕事である」と解説。わかりやすい事例を画像で示しながら独自のデザイン哲学や、ご自身の作品について紹介されました。

そして「デザインをする周囲が重要である。主体はさほど重要ではない。どういうものが欲しいかではなく、どんなものが環境に合致するかを考えるのです」と、世界中が注目する深澤氏のデザインの本質をついた説明に、多くの来場者は頷きながら熱心に聞き逃すまいと集中していたのがうかがえました。

セミナー終了後の質疑応答では、(内向的と言われる?) 県内の講演会などでは異例の質問者の多さが際立ちました。終了予定時間を大幅に超えても次々と熱のこもった問いかけが続き、改めて深澤氏の存在感と影響力が人を動かすのだと感銘を受けました。

(文責：西畑敏秀)



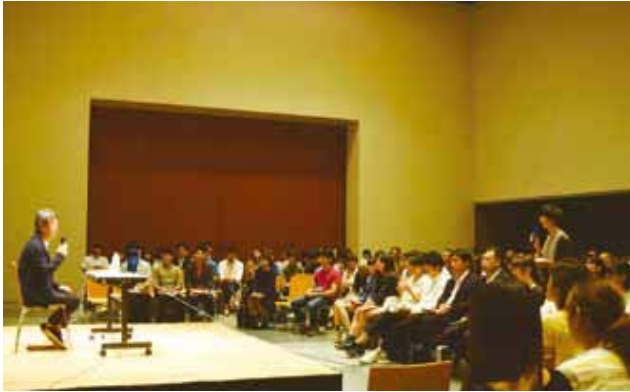
事前申し込みの時点で、県内外から数多くの問い合わせがあり、当日も本学の学生以外の来場者が次々と訪れました。



深澤氏のセミナーに、真剣な眼差しで熱心に聞き入る来場者の方々。



終了後の質疑応答では次々と手が上がり、多くの熱い内容の質問が交わされました。



一つ一つの問いに、深澤氏はご自身の考えを丁寧に説明されました。



生活情報専攻の田中先生も「アフオーダグンス」について質問されました。



この機会を逃すまいと、終了予定時刻をすぎても質問が続きました。



金津創作の森のエントランスに掲示された告知ポスター。



会場の設営や・運営も仁短生の必要な役割。



緑が素晴らしい自然の中の会場で、来場者をお迎えする準備活動。



深澤直人(ふかさわ なおと) プロダクトデザイナー

2003年 NAOTO FUKASAWA DESIGN 設立。卓越した造形美とシンプルに徹したデザインで、イタリア、フランス、ドイツ、スイス、北欧、アジアなど世界を代表するブランドのデザインや、国内の大手メーカーのデザインとコンサルティングを多数手がける。デザインの領域は、腕時計から携帯電話などの小型情報機器からコンピューターとその関連機器、家電、生活雑貨用品、家具、インテリアなど幅広い。人間とモノとを五感によって結びつける深澤氏の仕事は、より大きな喜びを使い手に届けるものとして高く評価されている。2010～2014年グッドデザイン賞審査委員長。多摩美術大学教授。21_21 DESIGN SIGHT ディレクター。日本民藝館館長。